

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	T01
プログラム名称	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	大久保 達也	プログラムコーディネーター	原田 昇

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

<p>[総括評価]</p> <p>概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、日本社会で喫緊の課題となっている「超高齢社会」に正面からチャレンジするものとして、分野融合型のリーダー育成プログラムとなっており評価できる。フィールドワークを含め、領域を超えたカリキュラム形成と体系化の努力も認められ、この点では一定の成果を上げている。しかし、グローバルな枠組におけるリーダー養成という本プログラムに期待されていたミッションに関しては、海外留学の改善等が一部に見られるが、中核組織である高齢社会総合研究機構の活用を含め、学生に対してグローバルな視野を導入する努力が教員に不足していた面が見られ、十分に達成できていない。全体として我が国における高齢社会に関わる実践的知見をグローバルレベルで展開していくという本プログラムの方向性を見失った印象を受ける。また、国際アドバイザリーボードも有効に機能したとは認め難い。</p> <p>修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者の過半数がアカデミア以外に就職しているなど、本プログラムの趣旨が生かされており、評価できる。これは、フィールド演習等における実践力の強化、同窓会を含む分野横断型の人的ネットワークが形成されつつあることなどの成果と認められる。しかし、上述のグローバルな枠組におけるリーダー養成という観点で修了者に明確な成長が見られたとは言い難い。また、修了者、在学生からも、本プログラムのこの観点での教育に関しては否定的な意見が見られる。ローカルな経験をグローバルな地平で展開するためにも、将来にわたって、修了者のネットワークの拡大及び教員や高齢社会総合研究機構との継続的關係の中で改善を期待したい。</p> <p>事業の定着・発展については、支援期間終了後、規模（募集学生数）は縮小するものの、引き続き独立した学位プログラムとして実施する予定となっており、学内予算措置を受けて学生への経済的支援も継続されること、また人員・体制やカリキュラム内容、学外との協力・連携についても大きな変更を伴わない継続内容となっていることは評価できる。学長のリーダーシップの下、本事業で整備した学位プログラム制度や運用のノウハウ、成果等を活用して、国際卓越大学院（WINGS）が創設され、全学的な大学院教育改革が進められており、プログラムの一層の発展が期待される。</p>

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	東京大学	整理番号	T01
プログラム名称	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	大久保 達也	プログラムコーディネーター	原田 昇

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p>【申立て箇所】</p> <p>(第一段落)</p> <p>しかし、グローバルな枠組におけるリーダー養成という本プログラムに期待されていたミッションに関しては、中核組織である高齢社会総合研究機構の活用を含め、学生に対してグローバルな視野を導入する<u>努力が教員に不足していた面が見られ、十分に達成できていない</u>。海外留学の改善等が一部に見られるが、全体として我が国における高齢社会に関わる実践的知見をグローバルレベルで展開していくという本プログラムの方向性を見失った印象を受ける。</p> <p>【意見及び理由】</p> <p>本プログラムにおいては、「我が国における高齢社会に関わる実践的知見をグローバルレベルで展開していくという本プログラムの方向性」を一層推進すべしとの、サイトビジットや中間評価の際の委員の先生方のアドバイスを反映するため、コース生の国際学会等への派遣を強化し、本プログラムの分野横断的共同研究の成果を国際学会等を通じて世界に発信した実績があります。国際学会等への平成 30 年度までの派遣数は 64 件であり（ヒアリング資料 p.18）、教員の実施する国際共同研究への学生の参加、海外の高齢社会問題の教育研究拠点の教員・学生数十名を招聘しての国際ワークショップの企画段階からの参加（IARU シンポジウムと APRU シンポジウム）など、留学生や在外研究員としての派遣にとどまらず、多様なグローバル能力開発の機会の提供を、諸資源の制約の中で、多大な努力を払ってきた経緯があります。</p> <p>以上のことから、 「学生に対してグローバルな視野を導入する努力が教員に不足していた面が見られ」</p>	<p>【対応】</p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p>しかし、グローバルな枠組におけるリーダー養成という本プログラムに期待されていたミッションに関しては、<u>海外留学の改善等が一部に見られるが、中核組織である高齢社会総合研究機構の活用を含め、学生に対してグローバルな視野を導入する努力が教員に不足していた面が見られ、十分に達成できていない</u>。全体として我が国における高齢社会に関わる実践的知見をグローバルレベルで展開していくという本プログラムの方向性を見失った印象を受ける。</p> <p>【理由】</p> <p>本文にも記載のとおり、グローバルな枠組におけるリーダー養成という本プログラムに期待されていたミッションに関しては、中間評価を受けて、国際学会等への派遣を含む海外留学の機会提供等の改善が行われたことは承知しているが、フィールド演習等のローカルな活動をグローバルに展開するという点において両者をつなぐ道筋が見えなかった点は中間評価以降も解消されていない。また、申請時に計画されていた海外の有力なジェロントロジー教育研究拠点を持つ大学への学生派遣については、学生の意識の問題により実現しなかった。これらのことから、プログラムを通してグローバルな視点を学生に強く自覚させるための教員の努力が不足していた面が見られると判断した。</p> <p>なお、中間評価以降、海外留学の改善等が行われたことについて、事実関係をより明確にするため、上記のとおり修正する。</p>

の箇所は、

「学生に対してグローバルな視野を導入する点について、教員は諸資源の制約の中で努力したものの力及ばず」と訂正していただくことを望みます。